

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

1 被害防止計画の特徴等

イノシシ・アライグマ・ハクビシン・ヌートリア・スズメ・カラス・ニホンジカ・ニホンザルを対象としており、侵入防止柵の設置や放任果樹の伐採等の環境管理の取り組みを実施する。

2 事業効果の発現状況

協議会を中心に関係機関と地元農業者等が連携して被害対策への取り組みが進められている。狩猟免許の取得も進んでおり、侵入防止柵と併せた箱わなの設置による有害鳥獣捕獲を積極的に行っている。

3 被害防止計画の目標達成状況

獣種ごとにばらつきがあり、被害防止計画全体では被害金額が増加しており、目標達成できなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地 域	実施年 度	対象鳥 獣	事業内 容	事業量	管理主 体	供用開 始	利用率・稼 働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見
										被害金額(万円)			被害面積(a)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
丸亀市	丸亀市 全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	130頭	-	-	-	市南部地域において、集落と山の境界でイノシシによる水稲及び野菜類、果樹類の被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うと共に、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置、各種わなと併せて有効な捕獲となった。 また、島しょ部においてもイノシシが頻繁に出没するようになり、作物被害に限らず、人的被害防止の観点からも、緊急捕獲活動支援事業を活用して、猟友会が捕獲活動を行うとともに、島しょ部住民に狩猟免許の取得を促し、捕獲活動の充実が図られている。	203	243	35.7%	308	142	300.0%	未達成の項目はあるものの、継続的な捕獲活動等により、被害面積は抑制できていると考えられる。 ただし、イノシシについては、これまでの取組みにより、市南部地域では被害が減少傾向にある一方、島しょ部では生息数の増加が認められるため、猟友会を中心に狩猟免許を取得している島しょ部住民とも連携して、効果的な捕獲活動に努めた。	イノシシは捕獲や侵入防止柵の設置により被害が減少している一方で、今後も総合的な被害防止対策を継続して被害防止に努めてほしい。 アライグマやハクビシンは、単価の高い作物の被害が多いので、餌付け防止や侵入防止柵の設置、効果的な捕獲により対策を推進してほしい。(香川県農政水産部農業経営課主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)
		3	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	146頭	-	-	-									
		4	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	128頭	-	-	-									

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:業効果は記載例を参考とし、獣種ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

3:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

1 被害防止計画の特徴等

イノシシ・アライグマ・ハクビシン・ヌートリア・スズメ・カラス・ニホンジカ・ニホンザルを対象としており、侵入防止柵の設置や放任果樹の伐採等の環境管理の取り組みを実施する。

2 事業効果の発現状況

協議会を中心に関係機関と地元農業者等が連携して被害対策への取り組みが進められている。狩猟免許の取得も進んでおり、侵入防止柵と併せた箱わなの設置による有害鳥獣捕獲を積極的に行っている。

3 被害防止計画の目標達成状況

獣種ごとにばらつきがあり、被害防止計画全体では被害金額が増加しており、目標達成できなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地 域	実施年 度	対象鳥 獣	事業内 容	事業量	管理主 体	供用開 始	利用率・稼 働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見
										被害金額(万円)			被害面積(a)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
丸亀市鳥獣被害 防止対策協議会 (丸亀市)	丸亀市	2	イノシシ	有害捕獲	くくりわな 130基	丸亀市鳥獣被害 防止対策協 議会	R2.8	100%	集落と山の境界でイノシシによる 水稲及び野菜類、果樹類の被害 が多発していたことから、緊急捕 獲活動支援事業を活用し山中に おいて猟友会が有害捕獲を行うと ともに、集落を囲うように山際に侵 入防止柵を設置。進入路となる河 川や道路に箱わな及びくくりわな を設置。これによりイノシシの年間 有害捕獲頭数は増加した。	203	243	35.7%	308	142	300.0%	イノシシにおいては積極的な捕獲に より被害が減少したが、今後も捕獲 体制の充実を図り捕獲を継続してい く。アライグマ、ハクビシンについ ては、被害額が増加しており効果的 ではない。	イノシシは捕獲や侵入防止柵の設 置により被害が減少しているの で、今後も総合的な被害防止対策を継 続して被害防止に努めてほしい。 アライグマやハクビシンは、単価の 高い作物の被害が多いので、鎖付 け防止や侵入防止柵の設置、効果 的な捕獲により対策を推進してほ しい。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖 敏)
		3	イノシシ	有害捕獲	箱わな3 基	丸亀市鳥獣被害 防止対策協 議会	R3.8	100%									
		3	イノシシ	有害捕獲	くくりわな 97基	丸亀市鳥獣被害 防止対策協 議会	R3.8	100%									
		4	イノシシ	有害捕獲	箱わな8 基	丸亀市鳥獣被害 防止対策協 議会	R4.8	100%									
		4	イノシシ	鳥獣被害防 止施設	ワイヤー メッシュ 柵950m	丸亀市鳥獣被害 防止対策協 議会	R4.9	100%									
		4	イノシシ	有害捕獲	くくりわな 190基	丸亀市鳥獣被害 防止対策協 議会	R4.8	100%									

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載す

3:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。